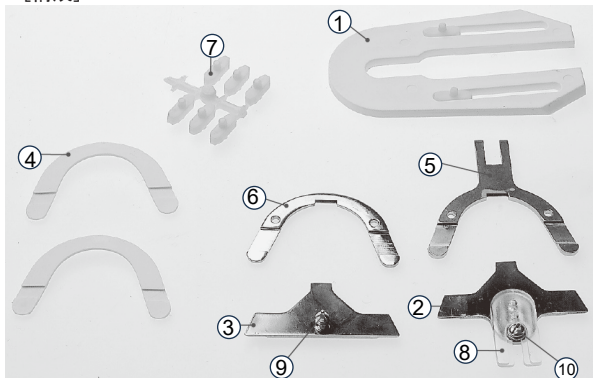


ナソメータ M

【形状・構造及び原理等】 【構成】



- ①マウンティングプレート
- ②上顎用レジストレーションプレート
- ③下顎用レジストレーションプレート
- ④バイトリム
- ⑤上顎用ベーシックアーチ
- ⑥下顎用ベーシックアーチ
- ⑦アダプター
- ⑧フィクシングプレート*
- ⑨マーキングピン
- ⑩ネジ M3

【原理】

組み立てた本品を患者に装着し、患者の口腔内の印象、咬合採得する。

【使用目的又は効果】

クラウン、ブリッジ、義歯等を作製するために、上下歯列の咬み合わせや、上下顎の位置関係を記録する。

【使用方法等】**

1. 技工所での取り付け

1.1. マウンティングプレートによる調整

マウンティングプレートによって、ナソメータMは以下の通り調整します。

- マウンティングプレートの前方を顎間距離の1/2の高さに、後方をレトロモラーパッド基準点に合わせます。
- 水平的に口腔内を2分割し、口蓋の正中線で左右対称にします。



ナソメータMはマウンティングプレート上、矢状(前後)に動かすことができます。マーキングピンは小臼歯の位置に設定します。

1.2. 基礎床の製作

通法に従い、SRイボレンを使用して基礎床を製作します。アンダーカットはワックスでブロックアウトしておきます。



1.3. ナソメータMの取り付け

下顎の基礎床に下顎用ベーシックアーチを固定します。



上顎の基礎床に上顎用ベーシックアーチを取り付けるために上顎模型に基礎床を載せて咬合器を閉じます。



こうすることでナソメータMはそれぞれの顎堤の位置に取り付けられます。最終仕上げを容易にするために、マウンティングプレートとレジストレーションプレートを取り除きます。



レジストレーションプレートの代わりにバイトリムも使用できます。

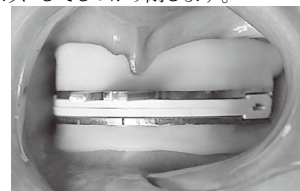
(上下の)バイトリムの厚みとマウンティングプレートの厚みは一緒ですので、しっかりと閉じます。垂直的な関係は変化しません。



2. 診療での作業手順

2.1. 個人トレーの確認

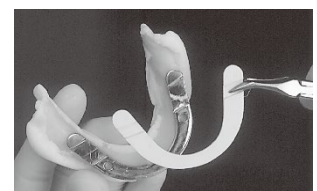
バイトリムのついた各個トレーをチェックし、必要に応じボーダー部分を調整します。バイトリムはデンチャーサポートエリアへ均等に力がかかるようにしてしっかり閉じます。



印象採得中は反対側のトレーを口腔内に残し、次のレジストレーションで正しい関係を得られるようにします。

2.2. レジストレーション

バイトリムを取り外し、レジストレーションプレートを代わりに入れます。マーキングピンを下顎に、フィクシングプレートを外したレジストレーションプレートを上顎にマウントします。

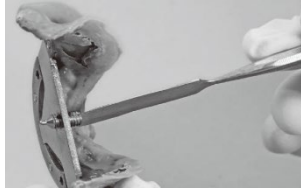


印象のボーダー部に傷を付けないために、ロングノーズタイプのプライヤーでレジストレーションプレートを装着します。患者が口を閉じた時に1点だけが接触します。

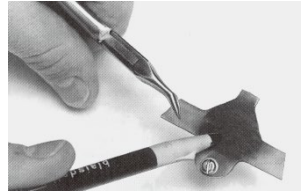


2.3. 咬合高径の確認

咬合高径をチェックします。必要に応じ、マーキングピンで高さを調整します。
ネジを1回転させると前歯部で高さが約0.8～1.0mm上下します。

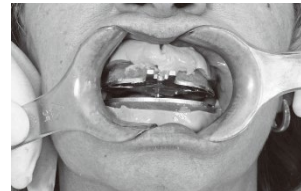


咬合高径を調整した後、上下各個トレイ（機能印象用）間の最後部にあるスペースを、フラットなインスツルメントで確認してください。トレイと余剰な印象材が触れ合わないようにします。下顎限界運動は正常に機能させてください。



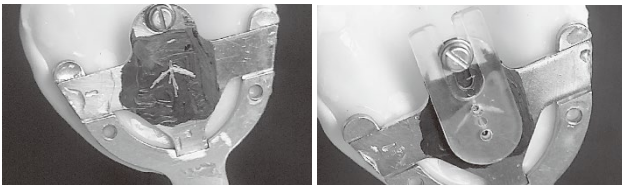
2.4. ゴシックアーチトレーシング

ゴシックアーチトレーシングを行うために、上顎の印象を口腔内から取り出します。レジストレーションプレートを取り出し、ワックスカラー等を薄く塗ります。
その後、プレートは口腔内に入れます。



口腔内に装着したら、患者に次の運動をしてもらいます。患者にあらかじめ以下の運動を練習させることをお勧めします。

1. 下顎を前後方向に動かします(2回)。
2. 下顎を右側に動かし、戻します(2回)。
3. 下顎を左側に動かし、戻します(2回)。

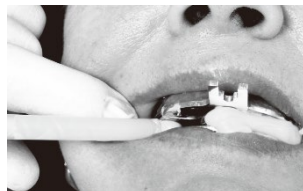


2.5. ゴシックアーチの確認

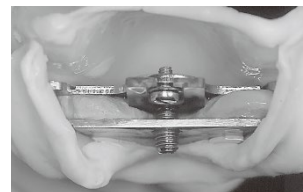
口腔内からレジストレーションを取り出し、チェックします。ゴシックアーチが不鮮明であれば、もう一度行います。固定と最終確認のために、採得されたゴシックアーチの中心位上にある2つの穴のうち、1つに合わせてフィクシングプレートを取り付けます。患者の口腔内をチェックし、レジストレーションピンが開閉口運動でフィクシングプレートの穴に入るかを確認します。ピンが何度も穴に入らない場合はフィクシングプレートを調整するか、レジストレーションをやり直します。

2.6. レジストレーションの固定

ベーシックアーチ間のスペースを、即硬性のバイト用印象材で埋めてレジストレーションを固定します。マーキングピンがフィクシングプレートの穴に入っているか確認します。唇は放しておきます。



UTS 3Dを使用して口腔外でレジストレーションを行った場合、口唇の印象は、正面部分に石膏を追加して採得できます。UTS 3Dによるボンウィル三角のトランスファーは咬合干渉を避けるのに役立ちます。模型は咬合器のジョイント部分でより正確に適応します。



口腔内レジストレーションを固定する際に、UTS 3Dアダプターを汚さないように注意してください。必要に応じ、固定する前にトランスファー

ボウを使います。

きちんと収まるところまでレジストレーションジョイントをUTS 3Dアダプターに差し込みます。これにより、レジストレーションジョイントは技工所で正確に適用されます。



患者の頭部にトランスファーボウを装着した状態で、ナソメータMをUTSレジストレーションジョイントに固定します。

【使用上の注意】

【重要な基本的注意】

- Ivoclar Vivadentではレジンを使用して基礎床に直接ベーシックアーチを取り付けることを推奨しています。これにより、診療中に安定させ、十分なスペースが確保できます。マウントする前にベーシックアーチ上にレジストレーションプレートが正しくセットされているかを確認してください。
- バイトリムが外しにくい場合、無理に取り外すとバイトリムの突起部分が破折する恐れがありますので、バイトリムとベーシックアーチの隙間にフラットなインスツルメント等を使用してから慎重に取り外します。
- マーキングピンは垂直方向に下げるよりも上げるようにします。つまり、咬合位が低い状態で印象採得し、実際のレジストレーションでマーキングピンを上げながら正しい位置に合わせることをお勧めします。
- 機能印象中の垂直方向へのわずかな高さを考慮してください。
- 患者が口を閉じた時にマーキングピンで怪我をしないように、舌をレジストレーションプレートの下か口の奥に置くように指導すること。
- ゴシックアーチのトレーシング時、頭が椅子のヘッドレストにもたれないようにまっすぐ座ってもらうこと。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

【製造販売業者】

Ivoclar Vivadent株式会社
電話 03-6801-1301 Fax 03-5844-3657

【製造業者】

Ivoclar Vivadent GmbH(オーストリア)